

講義名	国際経営論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	李 東浩		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4時限	授業形態	
	2018年度 経済学部 経済情報学科 情報システムコース/2018年度 経済学部 経済情報学科 経済情報コース /2018年度 経済学部 経済情報学科 2018年度 経済学部 経済学科 地域まちづくりコース/2018年度 経済学部 経済学科 現代経済コース/2018年度 経済学部 経済学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

- ★本授業は真正正銘の双方向・多方向的な授業である★
- ★本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する★
- ★本授業の実施方法の詳細については、<https://ryuka.repo.nii.ac.jp/> →『高等教育推進センター紀要→第2号→以下の論文を参照してください(全文無料ダウンロード可)』。李東浩 (2017) 『学生的心を掴む生きた教育ー教学双方の意識転換によるアクティブラーニングー』 『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp. 75-104 (30頁) ★
- ★ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細については、以上同様→第3号→以下の論文を参照してください。 李東浩 (2018) 『学部ゼミ運営に関する一提案ー「楽しく頑張る」から「ひとつくりー」』 『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp. 1-19 (19頁) ★
- ★単位だけ欲しいが学生・自信のない学生は履修を勧めない★
- ★真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める★
- ★毎回、面白いビデオがある★
- ★毎回、楽しいレスポンス問題回答がある★
- ★毎回、討論時間と発言時間がある。真正正銘の双方向・多方向的な授業★
- ★先生だけからの学びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な学びの仕組み★

ICT(情報通信技術)とグローバル化の進展により、多くの企業は、母国以外でも積極的に事業展開を進めている。欧米日など先進国の企業による国際的な事業展開は勿論長い歴史があるが、最近、新興国企業による国際展開も目覚ましい。この講義は、多国籍企業の事業活動に関する理解を深め、それに関する基本理論・特徴と実態を把握し、異文化、異なる制度環境という視点から企業経営を分析する能力を身につける。

到達目標

- ①知識・技能の観点：
本授業は、学修するものにとって当然知っておくべき知識と技能を習得できる内容になっている。
 - ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点：
基本的な理論を紹介するだけでは面白くない。毎回の授業にビデオがあり実際の組織をも取り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただビデオを単なる見るだけで終わるのではなく、考え、判断、討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで、毎回知識と能力が身につけることを実感できる。
 - ③主体的な態度の観点：
履修生は、本授業を学修することによって、能動的に主体的に勉強することの習慣を養成できる。
- 本講義を学修することによって、日常に企業に触れたり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、国際経営的な側面から評価し、レポートにまとめることができる。
また、得られた国際経営の理論とケースの知識と能力を身につけ、世界的な大局観を形成できる。

提出課題

毎回、レスポンスによる課題提出がある。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

毎回、前回のレスポンス課題を解説する。

評価の基準

- 期末試験：原則100%。
ただし、以下の配慮措置がある。
①警告私語・自由出入など迷惑行為・不正行為は毎回マイナスに評価する。
②授業参加の質量、討論、発言、優秀なレスポンスなどはプラスに評価する。

履修にあたっての注意・助言他

- 先輩からの以下の意見を是非参考してください。
1. 「互恵に触れる画期的な授業」：→充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！
2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だとします。モチベーションがとても高く維持できています」
3. 「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」：→→知識そのものだけでなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！
4. 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」

教科書

・使用しない。

プリント資料及び参考文献

1. レジメ(=プリント)等資料は必ず各自事前からRYUKA Portal からダウンロードと印刷して教室まで持って来ててください。早めにダウンロードを済ませてください。当日授業はレジメを教室まで持たない場合、降格の可能性もある。
2. 授業はPPTとレジメ・資料、映像、討論で進む。レジメには穴埋めが相当設けられ、PPTと確認しながら記入してもらう。
3. 参考文献：『ワークブック国際ビジネス』 文真堂 2009年。『国際経営論への招待』 有斐閣 2002年。『新グローバル経営論』 白桃書房 2007年。他授業中随時紹介。

授業計画

- 先輩からの以下の意見をも是非参考にしてください。
- 本授業の履修を勧めない3つの理由
1. 授業内容も多く教室紀律も厳しい →私語・居眠り・携帯弄りなどは不可能に近い。
 2. 期末試験は難しい →結局、真面目でないと単位を取る確率は低いかなあ。

- 授業シラバス。注：()内はビデオ内容。
1. イントロダクション：講義の概要と進め方 (日本企業の逆襲第一弾)
 2. フラット化する世界とグローバル化への理解 (日本企業の逆襲第二弾)
 3. 小売り企業の海外進出：セブン&アイの中国進出その1 (仕事の流儀ー三枝の中国 上編)
 4. 小売り企業の海外進出：セブン&アイの中国進出その2 (仕事の流儀ー三枝の中国 下編)
 5. 生産体制の海外展開：トヨタの米国進出その1 (NUMMIの過去、現在と未来 上編)
 6. 生産体制の海外展開：トヨタの米国進出その2 (NUMMIの過去、現在と未来 下編)
 7. 国際企業を作ろう：ソニーの米国進出その1 (ソニー神話の真実 上編)
 8. 国際企業を作ろう：ソニーの米国進出その1 (ソニー神話の真実 下編)
 9. 国際戦略概論：鴻海とシャープその1 (暫観する日本テレビ・メーカー)
 10. 国際戦略概論：鴻海とシャープその2 (復活するか?液晶王国日本)
 11. 国際経営と国際企業 (海外客を呼ぶ！)
 12. 国際現地を知ろう：中国の豊かさへの模索 (貧富の超格差・爆買いと富裕層貧困層)
 13. 国際経営の理論基礎 (無印良品の中東進出)
 14. 国際異文化経営 (ビジョンの海外進出)
 15. 国際企業のマーケティング：現地適応 (スキー場の国際経営戦略)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)
イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。
毎回、「能力を磨くこと」を実感できる。
だから、他のたくさんの授業のように、期末だけで猛勉強による一発勝負することはない(人生も同じような状況だろう！つまり人生も基本的に一発勝負ではなく、長年平日の積み重ねる努力こそは大事！)。
恐らくこの授業は、あなたの頭に永遠に残る大学授業の一つである(授業が終わっても長く長くまで鮮明に覚えるかもしれない)。
興味と余力があれば、授業の指定する参考文献をも読んでほしい。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけでなく、考えてグループワークで喋ったり、発言をする。映像を見るだけでなく、メモしたり分析して、レスポンスに回答を出し、発言をする。

実務経験の有無及び活用

備考

- 学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。
- ①速く甲斐のある授業(そうか！これこそは大学らしい授業だ！)。
 - ②静かで受講できる環境(私語ほとんどない！)。
 - ③退屈ではない(退屈の時間さえもない！)。
 - ④みんな一緒に互いに勉強する(自力・他力、皆の力を感じろ！)。